

アラ環女子、中国へ。 その一



いもねえさん

こういうことから始まった

2週間の中国旅行へ行ってきた。
広州～桂林～マカオ～香港～広州を巡った。

息子が就職するので、直前の2週間、中国へ行くというのだ。

私ダメ？

いいけど、行く？

5分待って。と職場の人に電話する。もうっ。いつも電話に出ないんだから。。。。

電話はつながらなかったけど、気持ちが先行した。

うん、行く。

安く行くから2段ベットの6人部屋とかだよ。

えっ、それは無理だわ。

24時間バスに乗るよ、ベトナム行くから。

それも無理だわ。

じゃあ考えるから。

そして、私も行くことになった。

私にとっては最後になるかもしれない海外旅行。

今回行かないともう後はない、という思い。

息子と行く自由旅行はとても楽しい。ツアーが行かないような所を歩くことも多い。

自由旅行では私とて英語をしゃべらない訳にはいかないのだ、それも楽しい。

心配なのは私の健康不安。医師の薬をしっかり飲めば大丈夫だ。

ホテル、飛行機は全部予約したよ、という息子。

違う場所に身をおいて気分転換もしたかった。

そうと決まったら忙しかった。

出発の前日には作業所のミーティング。夜は訪問入浴の会議。夜遅くにスーツケースに荷物を詰める。

当日は作業所の仕事を終えてから最終便の飛行機に乗り、とりあえず羽田まで行く、というあわただしさだった。

東横インに着いた時にはほっとした。

明日は成田に行けばいいだけだ。

旅行が終わったら息子は就職、私は作業所を退職。
それぞれの春のスタート。

最初からビックリだ～

成田空港出発の2時間前に待ち合わせ。

A N Aのパンダの飛行機だった。かわいいー。

バスの中はやけににぎやかだった。広東省の広州行き。

中国からのツアーが帰るんだな、炊飯ジャーを手荷物を持った人がいっぱい。

そして機内。

もう、ずっとしゃべっている。声も大きい。

機内サービスで最初にドリンクとおつまみが出たものの、ワゴンが通ると手を伸ばして取る、取る。

もう圧倒されてしまう。

ワゴンは数回通ったけれどその度に、手を伸ばして取る、取る。

スゴーっ。

ツアーだと日本人もこんなのかなぁ。。。

飛行機を降りる際の座席のゴミの散乱、すごかった。

画面には飛行機の位置がずっと示されている。

日本は、羽田、成田、そして八丈島の3箇所がずっと表示されていたよ。

中国の人は声が大きい、よくしゃべる

すごい生命力を感じるよ。

男か女かわからないぐらい。男言葉、女言葉ってあるのかしら。。。。

声が大きい。よくしゃべる。

電車の中であろうとバスの中であろうと。

そして、、、、表現が率直！

地下鉄のキップを買うのに、何度も100元のお札を入れたけれど、戻ってきた。

だいたいお札がヨレヨレなのだ。

何度も繰り返しているうちに、50元、100元のお札は使えないことがわかったが、、、、

後ろのオジサン、もう頭から湯気が出そうな顔して中国語で怒っていた！

スイマセンは通じなかつただろうなあ。

そのオジサン、ケンミンのビーフンの絵みたいな人で小柄で、185 c mの息子の後ろで単純に中国語でヤイヤイ怒っていた。

マンガ的であった。ただ単純に怒っていた。

怒ってたねー。

うん。

日本ではありえない。親切に教えてくれるだろうし、怒っていたら皆はその人を遠巻きに非難するだろう。

切符は静かに買うのだ。

会話はケンカかと思うくらいだ。感情そのままに出すんだねきっと。

中国人ってあんまり背が高くないね。

君がどこにいるかわかりやすよ。

危ない危ない

同じ中国でも、広州と桂林は車は右側通行。

マカオと香港は日本と同じ左側通行。

道路を横断する時に、どっちを最初にみるんだかついつい、、、、

危ない、危ない。

あんまり信号とかないし。

出たり入ったりの出入国

同じ中国とはいえ出国したり入国したり、、、

まず日本を出国し、広州で中国に入国。
広州からマカオに入国し、マカオ出国して香港に入国。
香港出国して広州に入国。
中国を出国して日本へ入国したというわけだ。

それぞれ時間かかった。
特に広州からマカオに入るのに1時間ぐらいかかってしまった。
何度も何度も入国カードに書き直す。
他の人はどんどん書いて行ってしまう。
二人でガイドブックやらホテルを確認しつつも、すぐに間違う。

これぐらいなぞればいいんじゃないの？ダメ！
でも隣のガイジン、ワクから字がはみ出してるし、グチャグチャだったけど、行ったよー。
もう真面目すぎない？1字ぐらい平気じゃないの？とかなんとか。

審査官はたいていするどい目つきでこちらを見る。
中には、ケータイで電話しながら審査を受ける人もいてビックリだ。

マカオは審査を通ったら警察犬がいた。
コワッ。
そういえばマカオには保安がたくさんいた。中には鉄砲をかまえて。

物乞いが . . .

中国に行く前に新聞の記事で読んだ。

3歳の子供とおばあさんの写真。

北東部は貧しくて、この3歳の子供が一家の稼ぎ頭ですと。

観光客からお金をめぐんでもらうのだ。

中国は想像できないくらいに大きくて、広州から桂林へは飛行機移動だった。

広州は広東省で、桂林は広西チワン族自治区。

桂林で見たのは道端に母らしき人を布団に寝かせ、隣で息子がくり返し頭を下げている光景。

体の傷ついた箇所を見せ、そばにお金を入れる器を置いている人も。

広州の珠海からマカオへの入国、ここはすごい数の物乞いが。

入国の通り道の柵から、きつねどんべいみたいな容器を持った手が伸びている。15~20人ぐらいいたかなー。

息子が言うにはマカオは通貨が違うから人民元を入れてもらおうとしてるんじゃないかな、と。

それにしてもだ。

気持ちの良い光景ではない。

私が子供の頃には日本でも見かけた。物乞い

でも、今は見ない。

布団や衣類を入れる大きな袋とバケツのセットで。

広州の地下鉄で大きな布団袋とバケツにいろんな物を詰めて乗り込んでいる人を何人か見かけた。
そしてバスターミナルともなると、そういう人がワンサという。

長距離バスの時間待ちか。お祭りでもあるかのようなにぎわい。

露店も出ている。

なぜか布団袋とバケツのセット。ものがいっぱい詰まった大きなレジ袋。

なんでバケツなんだろうね。

今から何時間も長距離バスに乗るんだからゲボ用だよ、と乗り物酔いしやすい息子。

いや、ゲボなら袋でしょう。

日本語ガイドのヤンさんの話からわかった。

出稼ぎの帰りだ。

荷物一揃いで田舎に帰るんだ。

田舎の若い人はほとんど出稼ぎに都会に出る。

中国の旧正月といわれる時期は、中国全体がものすごい民族大移動ですよ、これはスゴイですよ。

中国はそういうの大事にします。日本はドウデスカ？

私の場合、お正月もお盆も普段通りの日々を過ごしている。。。。

年賀状も書かなくなったし。お雑煮も食べなかった。。。。

広州の地下鉄はとってもスッキリ

広州空港に着いたのは午後10時頃。

地下鉄かタクシーだなと言っていたが、流れで地下鉄駅に。

地下鉄。できたばかりだな、新しい。

電車が到着したらホームのドアも開くという最新式！

自動券売機もわかりやすいなー、と息子。

画面の行き先に触れると値段が表示される。

チップを埋め込んだトークンという緑色のコインのようなものが出てきて、おつりも同じ場所から出てくる。

そのトークンでタッチすると入り口が開く、出るときはカギ穴に入れる。

親切なのか、わかってないと思っているのか、息子は毎回、タッチね、ここに入れる、と言ってくれる。

スーツケースでもつれて、出口でワッと驚いた時、あなた何をやっとなんだね、と完全にバカにされ、、、

息子はどうしてそんなに簡単に、日本との違いを受け入れられるんだろう。。。。

以前からここに住んでいたのかい、というぐらいに。

広州の地下鉄、座席がステンレス。すべるすべる、しかも冷たいよー。

しかし、網棚がないし、列車のつなぎめもスッキリ。

とってもキレイ。

でもなー、始発電車の一番前に並んでいたのに座れなかったっていうのは、スサマジイ！

英語のアナウンスもあるけれど、広州はゴンゾーだ。

日本の地下鉄で英語のアナウンスもあって邪魔だなと思っていたけれど、外国人には必要なんだね。

洗濯物は夜でも取り込まないのね

洗濯物を外に干している光景がいつもある。

平屋でも高層住宅でも。

服の色はとってもカラフル。

窓は洗濯物で覆われるぐらいどの家も洗濯物だらけ。

夜、外を歩いたことがあった。

洗濯物取り込んでない！

どの家も。

香港もマカオもそうだった。

砂埃だらけの桂林も。

干したままなんだー。

雨に出会ったのは、桂林到着の日の夕方と夜だけだった。

その時は傘をさしていたから上は見なかったのでわからないけれど。。。

雨でも夜でも人はいっぱい。

人がいる公園

とってもステキな光景だ。
いろんな公園で見かけた。

日本の公園、あんまり人がいないけれど。。。

どの公園もキレイに整備されていて、さらに人がいっぱいいる。
早朝、昼、夜。

いいなー。

気功とか太極拳、ダンス、歌、様々のグループ、一人でやっている人も。
走っている人も。

今日何曜日？平日だよなー。

大人、お年寄り、アレ会社じゃない？羽根を蹴って遊んでる。
近づくとその羽根を分けてくれた。やり方を教えてもくれた。難しいけど。

なるほど、道具とか何にもいない遊び。

千昌夫の「北国の春」を歌っていたグループがあったので一緒に歌った。

発声練習とか何もなく気軽に参加できるのがいいよね。
あんまり高度なのは敷居が高すぎるよ。

バケツに水を入れて、その水に筆を浸してはブロックに書を書く人、たんたんと。



これは中国の光景みたいだ。
乾いたら消えるんだけどね。
人だかりができる訳でもなく、、、自然体。

テレビ、お茶、そして独特のポーカが人々の楽しみ。

椅子に座って、輪になってカードをしている人たち。

寒くてもなんのその。

でもちょっと変わった形してるカード、細長い。

ホコリっぽい道端に果物を並べて売り、その横でカードを楽しんでいる。お年寄りが多い感じだった。

男性も女性も。

日本語通訳のヤンさんに聞いてみた。

アレは一、まあ、ポーカのようなものです。独特ですね。

もちろんお金賭けてますヨ。

中国の人の楽しみは、テレビ、お茶、ポーカですね、と。

桂林での話しです。

中国は広いから、北京や上海などは全く違うのでしょうかね。

日本だって都会と田舎は違うし。

外食ばかりなのかなぁ。。。。

朝は早くから食べ物屋さんから湯気が出ている。

外での飲茶が朝食の人もいるのだろう。

桂林ではやたらととうもろこしを食べながら歩いている人を見かけた。

朝も夜も。

リヤカーで売っている人も、これから売りに出ようとリヤカーをこいでいる人も。

飲茶も多い。そばで作っている。

野菜はヨレヨレ、お金をさわった手で作る、直接レジ袋に放り込む。

一度、朝息子が買いに行ってホテルで食べた。

又食べようというものでもなくて、1回きりだった。

香港でも朝飲茶の店に。それは息子がネットで調べた店。

エレベーターを上がると、もうたくさんの人、相席に案内された。

にぎやか。ほぼ満席で次から次へと入れ替わる。

真ん中に大きな洗面器のようなものがある、そこに店の人が湯のみを入れた。

アツアツのお茶を注ぐ。どろどろどろどろ、、、溢れた、でもまだ注ぐ、、、ただじっとみつめる。

熱い湯のみを取り出して、新たにお茶を注ぐ。

そうか、そうしろってことね。

テーブルの上は濡れる、気にしないのだ。

大きなヤカンをもって歩いている店の人は常にいろんなテーブルで急須にお湯を注いでいる。

ドボドボと。

一番最初のお茶を味わうとかじゃないのね。

相席の人が変わった。

慣れた手つきで湯のみにお茶をこぼし、次には箸にもお茶をかけ、、、

お湯を足してもらい、出がらしのようになったお茶を飲んでいた。

ワカラナイナー、、、、、、

ジャスミンティーみたいだったけれど、味なんてわからないよー

そしてワゴンで料理が運ばれてくる。

そこから選ぶのだ。

これは選びやすい。が、しかし、朝からそんなに肉を食べるかね、それでなくとも人の多さとお茶の熱気で圧倒されているのに。。。。

適当にワゴンから選んだ。すぐにお腹いっぱい。

公園なんかでも夕方6時を過ぎても、若いママたちが子供を連れて遊びオシャベリ。

私なんか、一番忙しい時間帯だったけどなあ。。。

夕ご飯はどうするんだろう。。。。。

何か買うのかなあ。。。

薬局が多いなあ。。。

最初におみやげ用に活絡油とタイガーバームを買った。

これは大正解で、私の捻挫で中国滞在中に1ビン使い切った。

以前、マレーシアに行った時に現地の知人のオススのオイルに似ていた。

薬局の人は英語が通じなくて、ゼスチャーで。

効能のところでだいたい解った。

私はこのところさすが中国3000年の歴史をもつ薬を見直している。

生薬やお茶、気功など自然体。自然治癒力を期待し、体の中から整えていくという姿勢。

桂林で息子が又熱が出そう、と。喉も痛い、咳も。

あー、、、

夜、一人で水を買いに、そして薬局に。

もう筆談だ。まあ、私は看護師なので、ポイントを筆談で。

「解熱」、「咽頭痛」、「感冒」、「葛根湯」「咳」と書いた。

this one please,,,

英語通じない！でも、あー、あー、あー、と2種類の薬を出してくれた。

効能を見ると欲しかったものだ。

あとはゼスチャー、両方飲むといい、お湯でといて、、、などだいたい解った。

ジーパン？

yes,from japan.

3人寄って来た、ジーパン、ジーパンと言っている。

それで薬の値段、そろばんを示した。しかも、上の段には玉が二つ！上は玉は一つでしょう。。

。。

もうわからない、私の持っているお金から、何やら言いながら確かめるように抜き取っていた。

足りて良かったー。

水とゼリーなんかも買えた。

日本に帰るまで息子はその薬を飲むことになった。

中国の薬だと何か安心だ。テキメンの効果はないにしろ。何しろ3000年の歴史があるんだから。

そしてマカオのセナド広場付近にはビックリだ。

10軒に1軒ぐらいの薬局ではなかろうか。

お客さんがどの薬局にもいっぱい。そしていっぱい買っている。

夜の訪問者、うわっ！

広州のホテルで。

夜パソコンの動きが悪いと息子はロビーに降りて行く。

部屋のカードキーが1枚だったので、ノックの合図で部屋を開けることに決めた。

コンコンコン、私コンコンコン、さらにコンコンコン、で私がドアを開けるのだ。

ピンポン、アレ、ピンポンなんてあるんだー、今日は早いなーと思ったらコンコンコン、

私コンコンコン、又コンコンコン。

ドアを開けた。

そこには大柄な若い男性が、、、「うわっ！。。。ナンダラカンダラ。。。」中国語をしゃべって行ってしまった。

あーこわー。

遅くなって、又コンコンコンときた。今度はコン、ココンとリズムをかえてみた。

「何やっとするの？」と息子の声。

さっきの出来事を話しまくった。

本当にビックリよ、怖かったー。うわっ！とか大げさにビックリしてんの。

いやー、怖かったのはあっちの方だったと思うよ、と息子。

人に話しても同じ感想だった。。。。

大きな蓮！広い植物園。

中国最大という熱帯植物公園、華南植物公園。

1日かかると書いてあったが、なるほど1日かかった。それでも全部はとてとても見れない。
地下鉄とバスで行った。

大きな温室だけでも4つ。

その一つ一つがやたらと大きいし興味深い。

見たかったー、この大きな蓮。残念ながら花は咲いていなかったけれど。





王莲的“生存智慧” Survival Strategy of Victoria

1. 叶片可当船

一片巨大的王莲叶直径达1.5~2.5m，负重60kg，可以当临时小船使用。这是由于其叶片和叶脉内具有很多大的空腔，腔内充满气体，使叶片浮于水面。叶子背面生长着粗壮的叶脉，板状隆起，纵横交错，构成高10cm以上的方形小格，有利于保持叶片开展性，增加叶片的排水力和负载力。



叶背面

2. 巧妙避敌害

王莲的叶子巨大，底部满布硬刺，不仅可以排挤周围的植物，占据生长疆域，同时也有效地阻止了鱼类的咬啮。

3. 抗洪排水能手

王莲的叶片上密布小孔，叶缘还有两个缺口，大雨时水可以从小孔和缺口迅速排走，保持叶片干燥，避免了由叶片积水而造成腐烂，影响其光合作用，也避免真菌和藻类的滋生。



叶正面

The mature size of leaves is 1.5-2.5m. Any other plant competing for sunlight is either pushed out of the way or covered by the gigantic leaves. The undersides of the leaves are studded with spines to prevent any passing fish from munching.

The leaf of *Victoria* is able to support quite a large weight due to the plant's structure. To counter the fragile nature of the leaf, the weight needs to be distributed across the surface through mechanically by using a sheet of plywood. This allows the leaf to support up to 70 pounds.

スケールがちがうわ。どこもここも。

水の中から生えている大木。



小学生らしき遠足集団が広場にいたけれど、ほぼ同学年だね、1000人はいた。
いっぱいいるねー。

この人数もスケールがちがうわ。同じジャージ着て。

同じ発泡スチロールに入った弁当食べて。

みんなゴミ箱に弁当ガラを溢れさせて捨てて。（これは日本ではありえない）
こりゃ、いかんわ。

それにしても次から次へと植物区が。

観光団はあっというまに来ては帰っていく。

そんな時、個人旅行でよかったなあとつくづく思う。最後は足が疲れてしまったけど。

バスは3分おきぐらいに次々来る。しかもどのバスもけっこう人が乗っている。

山の手線みたいに来るねー。

息子はバスを訪ねていたけれど、英語は通じなかったみたい。

漢字とガイドブックを頼りに、、、

オマケ

植物園、60歳以上は半額と書いてあったのでパスポートを示し、私は半額の入園料だった。

温室に入る時、その券を出すと、そこにいた女性はダメというように色の違う券を指差した。
面白くなさそうな顔をして。

息子はshe is my mother! というが通じない。

パスポートを示し、sixty one

彼女は「ママン? 」 yes! ママン。

今度はイエーイ!!と親指を2本立てて喜んで通してくれた。

全く感情表現が率直だ。

私はきっと60歳以上にはみられなかったんだね、ウフッ。

広州では化粧をしている人は若い女性でも少なかった。

私ぐらいの年では白髪も染めていないし。バアサンだ。

広州の人は服の色こそ派手でピカピカのピースがついていたりはするが、着こなしているという風ではない。

きちんとしたオシャレをしよう、とあらためて思いました。